

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし

2013 年度

教区総会報告

3

東北 沖縄 東中国
東京 西東京 関東

日本伝道・教区伝道を論点として



左から、石井書記、小西議長、保科副議長

東北教区センター設立総会を行う



東北教区 第68回東北教区総会が5月28、29日、仙台青葉荘教会および東北教区センター「エマオ」にて開催された。正

議長156名中、開会時136名の出席であった。按手札と准允式が執行され、新たに正教師、補教師各1名が立てられた。

「東日本大震災に関する件」の中、第66回教区総会で可決された「東日本大震災対応及び東京電力福島第一原子力発電所事故対応に

関する件」の基本姿勢の継続が確認された。2013、2014年度の2年間は、東北教区教会救援復興委員会と教区被災者支援センターが継続されることとなった。その後も仮設住宅がある限り活動継続は望まれるが、目まぐるしく変化する状況の中で対応していく。また、放射能問題支援対策室の設置に向かうた

め、教団への協力が叫ばれた。高橋和人議長より「再度原子力発電所の廃止を求める声明」が読み上げられた。また、被災復興がカルト宗教団体によって利用されていることについて、教区や教団の認識を問う意見が議場に出た。さらに、東北教区が直接に行っている部分ではないが、諸宗教連合の活動における経緯が文面資料も添えて説明され、再発防止など今後の対応にも協議が及んだ。

1日目の夕刻には、宣教共働研究所によって協議会が行われた。福島第一原子力発電所事故による日本基督教団東北教区諸教会・付属施設・地域社会への影響調査報告と提言のもと、3つの発表がなされた(原子力発電所放射能災害による地域社会への影響、同じく教会付属施設への影響、また同じく教会への影響)。それらを受けた提言においては、震災後の神学が模索されていた。

総会期間中2日目の朝には、「日本基督教団東北教区センター」設立総会が行われた。総会1日目に、新「日本基督教団東北教区センター」設立に伴う、旧規則廃止および教区規則の一部削除が既に可決された。それを受け、86の教会・伝道所から1名ずつの議員を出し、発足時68名で総会が成立した。日本基督教団東北教区センター規則の承認と、理事および監事の選出がなされ、工藤正剛議長より設立宣言がなされた。また、予算が承認され、新たなセンターの歩みが始まった。

教団問安使として長崎哲夫総幹事を迎えた。議場からの要望として、教団議長震災発生時からの高橋和人前議長の退任挨拶には、長い拍手が起こった。

四役選挙結果
【議長】小西望(仙台北)
【副議長】保科隆(仙台東一番丁) 【書記】石井佑二(山形本町) 【宣教部委員長】片岡舘也(若松栄町) 常置委員選挙結果
【教職】原裕(天童)、長尾厚志(仙台ホサナ)、布田秀治(いずみ愛泉)
【信徒】遠藤道雄(福島伊達)、小林義春(石巻山城町)、志藤仁一(山形本町) (飯田敏勝報)

教区に教師人事部を設置することにに向けて研究を開始する件」が可決された。四役の選挙が行われた。震災発生時からの高橋和人前議長の退任挨拶には、長い拍手が起こった。

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」
教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。
2013年6月
教団救援対策本部長 石橋秀雄

目標額 10億円(国内のみ)
期間 2011年7月1日～2015年3月31日
振替番号 00110-6-639331
加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

伝道所議員問題常置委付託



沖縄教区 第71回沖縄教区総会が、5月26日から2日間、沖縄キリスト教センターで正議員42人中、開会時34人が出席して開催された。

沖縄教区は、03年以来、11年連続で教団問安使を拒否したが、石橋秀雄教団総会議長は、3年連続で総会を傍聴した。

開会礼拝後の午後5時過ぎ、組織会に入る直前、「11年前の教区規則改正、昨年総会の論議を経たのに、何故今総会も伝道所議員が正議員として招集されなかったか」の発言から長い論議が始まった。

竹花和成議長は、「教団からの教区規則改正不承認の文書受領後、論議を重ね、教団に質問状を送ったが、今総会開催準備中に回答が届かなかったため、従前通りに行うしかなかった」と了解を求めたが、議論が続いた。

「小さなものを切り捨て、現行制度は、反福音的だ。教団の制度を超えるべき」

「昨年12月の70回教区臨時総会も議論のないまま、従前通りに招集された」教団の制度を変えるには、時間がかかる。この議場が決められないのではないかなど、反論が続く中で、竹花議長は、「規則改正推進作業委員会の報告があるので、

そこで論議を継続したい」と訴え、重苦しい沈黙が続いた後に、議員点呼が始まった。

竹花議長は、6頁に及ぶ長文の議長中間報告で、「教団全体では、1種、2種の体を成さない教会が多数ある。運営上の問題を省いて、神学的、信仰的に教会種別分けの必然性を見出すことが出来ないの、沖縄教区が主体的に教会種別撤廃を議案化して行くことを検討したい」と報告した。

教区規則改正「伝道所の議員を正議員とする」推進作業委員会報告で、村橋嘉信委員長は、石橋秀雄教団総会議長は、石橋秀雄教団総会議長から教区質問状へ

の回答が届いたことを明らかにし、議論が再開した。

本年3月、竹花議長・常置委員会が教団総会議長に出した質問状は、(1)教区規則変更申請は、合同議定書の付属文書にある「協議の精神に従い」「双方が趣旨達成に努力すべき」課題の一つと理解するが、如何か(2)教規61条(1)の但し書きは、信仰職制委員会答申の「教会規模に応じた員数の変更が可能」にすると理解するが、如何かの2項目だった。

石橋秀雄議長の回答(5月17日付)は、(1)教区規則変更申請が、合同に至る課題の一つと理解したとしても、教規61条(1)の但し書きで具体化されている(2)員数の変更とした信仰職制委員会の答申は妥当(質問状・回答ともに要約)というものであった。

村橋委員長は、「教団総会議長の回答は、事務的で、非常に残念だ。これを受けどうするかは、教区内の教職・信徒全員がよく考えて、自分たちで決断することとなる」と語った。

「教区規則は教団総会議長の承認を受けると教区規則61条にあり、教区は自ら縛りをつけている」「教団は形式論で駄目というが、教団内には現住5名に満たない第1種教会も幾つか存在する」「教区総会を開催しているのも規則があるからで、規則を守らなくても良いといえるのか」と議論は

噛み合わず、竹花議長は、「合同時、沖縄は低姿勢で教団側に合わせていた。合同は正しかったのかという賛否論争をしても、『将来のあり方』は出て来ない」と語った。

議論は2日目午前までに持ち越したが、平良修議員(元将来教会特設委員長)が「昨年の総会も長時間議論した。教区自らの縛りもあることから、この議論を続けていても結論は出ない。常置委員会の責任で、この問題を常置委員会に委ねたい」と発言した。

(永井清陽報)

した。議場からの発言もな

く、一昨年総会以来、最大の論議となっていた伝道所議員正議員問題は、常置委員会付託となった。

2012年度決算では1982万円で、35%の700万円が繰入金。研修センター「なきじん」資金取り崩し議案を可決した。

建議「日本国憲法の改悪に反対する声明」を常置委員会でご文書を精査するとして採択した。橋下発言に対する抗議・反対声明を出すことを常置委員会に付託した。

3年連続最大の論議は持ち越しとなった。

教団信仰職制委答申を巡り議論

東中国教区 第62回総会
は5月27日、

28日、岡山教会を会場に、開会時正議員90名中73名の出席で開催された。開会礼拝では「もっと大きな賜物を」という題で説教が語られ、聖餐を共にした。

小松茂夫議長による議長報告では、教区内諸教会・

献金のさらなる充実を呼びかけた。

議長報告と常置委員会報告で議場からの質疑が集中したのは、昨年度の教区総会でも議論となった、教区内一教会における信徒伝道者による聖礼典執行とそれについて教区が教団信仰職制委員会に出した諮問に対する答申の取り扱いについてであった。答申では、すでに辞職した当該信徒伝道者による洗礼は有効であるとされた。教区常置委員会は、この答申を受け入れ、今後「このようなことが起こらないように配慮していきたい」と報告した。これに

対して、教区が諮問を出した時点で当該信徒伝道者の他教派における按手礼の有無や、洗礼執行に際しての当該教会役員会の承認の有無など、常置委員会がどれだけ把握していたのか、について質疑が出された。また、教団信仰職制委員会の



左から、奥田書記、小松議長、服部副議長

た、教団信仰職制委員会の

答申とは言え、教区として受け入れるまでに丁寧な議論をするべき、教会の中

ことは教区にも立ち入れない部分がある、などの意見が出された。議事進行動議が出され、60名中57名の賛成により、議長及び常置委員会報告は承認された。

教団問安使挨拶は、雲然俊美教団書記により行われ、未受洗者陪餐について、

洗礼から聖餐への順序は変えられないこと、東日本大震災被災教区・教会への支援が継続されるべきことが強調された。様々な意見の相違はあっても、「私たち一人ひとりが教団を形成している。祈りと力を合わせて



東中国

まいりたい」と挨拶した。議場からは、性差別発言や未受洗者陪餐の戒規についての質疑がなされた。

【憲法第96条の改悪に反対する件】議案は、教区からの声明を政府に送るというものである。慎重意見も出されたが、審議の末、声明の文章を簡潔にし、7月の参議院選挙までに送付することを前提として、常置委員会付託を決議した。合

わけて、こういった声明を送るだけではなくて教区内各教会へ周知し、宣教の課題とするべきとの意見も出された。

他に議場で緊急議案として出された「橋下徹大阪市長の差別発言への抗議を表

明する件」が可決された。

三役選挙及び常置委員選

挙が行われた。また、東北教区被災者支援センターの佐藤真史主事より支援への感謝と現状の訴えが行われ

た。

【書記】奥田望（上井）

【教職】指方信平（旭東）、田中寿明（天城）、倉橋克人（玉島）、森嶋道（湖山）

【信徒】土井しのぶ（総社）、難波幸矢（光明園家族）、松田章義（鳥取）



再開発により、
現会堂での教区総会は最後に。

建議・請願の取り扱いは正

第72回東京教

区定期総会は、

5月28日、富士見町教会で

開催された。再開発事業の

ため建築中の新会堂の完成

を間近に控え、今回が現会

堂での最後の教区総会とな

る。正議員494名中、開

会時314名が出席した。

議事日程の承認におい

て、木下宣世議長より、建

議・請願の取り扱いについ

て、従来総会当日昼までに

提出する慣例であったが、

総会開会7日以前に提出す

ることを求めるように変更

したことが説明された。こ

れは、第71総会期第7回常

置委員会で確認されたもの

で、教規第22条並びに総会

議事規則付則(2)に準拠する

ように是正するものである

が、従来の慣行からの移行

措置として、教規に「総会

開会21日以前」とあるもの

は、第72回東京教区定期総

会においては「7日以前」

と読み替えた上で、総会公

告に掲載することとなった

ものである。その上で、今

回、建議・請願の提出がな

かったこと並びに議員提案

になる議案が無いことが報

告され、法定議案のみで総

会を開催することを確認

し、承認された。

続く来賓挨拶で、在日大

韓基督教会関東地方会建

副会長は、近年日韓関係に

おける様々な形での緊張関

係があり、心痛めている。

かつて、外登法の問題等、

日本のキリスト者の支援が

大きな力になったことを想

い起こしたい。来年、教団

との宣教協約締結30年を迎

えることを覚え、更なる連

帯と協働の必要を語った。

また、教団問安使として

伊藤瑞男教団副議長、他、

教団三局から、藤盛男紀総

務幹事、竹澤知代志出版局

長、藪田安晴年金局理事長

がそれぞれ挨拶した。問安

使を含む教団からの来賓へ

の質疑は、例年昼食休憩時

に議員番号と氏名を付した

書面で提出する慣例となっ

ているが、今回は提出がな

く、質疑は行われなかった。

13年度宣教活動計画は、

「伝道・連帯・奉仕」を柱

として12年度計画、報告を

踏襲して、内容の充実、進

展を定め決定した。

三役選挙では、議長に真

壁蔵前副議長が選出され

た。「教区設立に携わった者

として設立当初の志に基づいて務める」と挨拶した。

副議長には山畑謙（小金井緑町）、【書記】七條真明（高井戸）

常置委員半数改選結果

【教職】大村栄（阿佐ヶ谷）、岩田昌路（狛江）、道家紀一（井草）

【信徒】川原正言（南三鷹）、内堀怜子（相愛）、中川義幸（阿佐ヶ谷）

（新報編集部報）

教団負担金の見直し軽減、未受洗者陪餐、教区活動連

帯金、沖繩教区との関係等について質問、意見が述べ

られた。長崎総幹事はこれら

の質疑に逐条的に丁寧

に答弁した。

三役選挙結果

【議長】真壁蔵（相愛）、【副議長】岸俊彦（経堂北）、【書記】中村公一（高輪）

常置委員半数改選結果

【教職】大三島義孝（碑文谷）、張田眞（鳥居坂）、小橋孝一（新島）、大友英樹（赤羽）、中村謙一（亀戸）

【信徒】鈴木優子（小松川）、池田浩二（霊南坂）、奥山盾夫（千葉本町）、鈴木功男（白、黒沢咲子）（下谷）

（林牧人報）

正・副議長を新たに選出

第28回西東

京教区総会

は、5月26日、27日、国分

寺教会にて開催された。開

会時、出席議員は212名

中128名だった。

開会礼拝では、5名の准

允、1名の按手が執行され

新しく教会に仕える補教

師、正教師が立てられた。

12年度報告で大村栄議長

は、教区設立の理念である

「伝道・連帯・奉仕」を

宣教の三本柱として掲げ、



左から、山畑副議長、真壁議長、七條書記



西東京

的展開、「青年活動充実、支援」、「他教区交流」、「震災被災教区の継続的支援」を年度目標とした」ことを報告した。

12年度には立川からしだ

ね伝道所、八王子ペテル伝

道所が新しく開設され、今

総会では2002年に開設

された阿佐ヶ谷恵み伝道所

廃止を承認することで教区

内98教会・伝道所となるこ

と、また、1999年、教

区開設時には7700名で

あった教区内現住陪餐委員

数が、2011年度には6924名に減少していることを報告した。

議長報告への質疑では、

教区音楽祭委員会新設の手

続きについて、沖繩教区と

の関係について、キリスト

教学校との関係について問

うものがあつた。

常置委員会報告、各委員

会報告においては、統一原

理問題特設委員会が報告し

た「教会のカルト化」につ

いて、カルトであることを

判断する基準を問う質問が

あつた。

12年度決算を承認し、前

年度予算比12.5万円減額

にて、13年度予算5333

万円を可決した。

【書記】奥田望（上井）

【教職】指方信平（旭東）、田中寿明（天城）、倉橋克人（玉島）、森嶋道（湖山）

【信徒】土井しのぶ（総社）、難波幸矢（光明園家族）、松田章義（鳥取）

（塚本吉興報）

議長報告において、前総

会で常置委員会に付託され

た「教区伝道協議会」につ

いて、教団の「改訂宣教基

礎理論」の推移を見ながら

これを参考として教区の伝

道基本方策を策定すること

と、具体的な協議会開催に

ついては、支区主催の会に

事柄に終始し、負担金未納

教会へのさらなる対応や会

議費などの見直しを求める

意見が出された。

夕食休憩前に常置委員選

挙結果の発表を待つものと

なり、16時より休憩に入り、

18時に選挙結果を承認し、

予定より早くに総会を終了

した。

三役選挙結果

【議長】木下宣世（西千葉）、【副議長】岸俊彦（経堂北）、【書記】中村公一（高輪）

常置委員半数改選結果

【教職】大三島義孝（碑文谷）、張田眞（鳥居坂）、小橋孝一（新島）、大友英樹（赤羽）、中村謙一（亀戸）

【信徒】鈴木優子（小松川）、池田浩二（霊南坂）、奥山盾夫（千葉本町）、鈴木功男（白、黒沢咲子）（下谷）

（林牧人報）

関東教区「罪責告白」議案を可決



関東教区 第63回関東教区総会は5月28、29日、大宮ソニックシティ・小ホールを会場に、開会時正議員268名中174名の出席で開催された。総会礼拝の中で准式・按道所」開設に関する件」が承認され、伝道所開設の喜びを分かち合った。各議案は協議を深めるため4つの分科会に回付され、その報告を受けて審議された。関東教区「日本基督教団罪責告白」に関する件は、15年間にわたり教区で取り組みを重ねてきただけに、関心を集めた。提案趣旨は「関東教区は、『日本基督教団と沖縄キリスト教団の合同のとなえなおしと実質化』という教団の課題の中で、合同の議定書前文の『裂け目を克服する』道を求め、日本基督教団の罪責を明確にすること、そのため歴史検証をすることを決意し、1999年開催の第49回教区総会において『日本基督教団罪責告白検討』特設委員会を設置しその作業を続けてきた」というものである。これに対し「教団信仰告白に並ぶ罪責告白ではない」「教団信仰告白が真実なものとなることを促すのであり、この罪責告白を強制するものではない」との説



正教師による按手を執行する。

「明があった。秋山徹議長は『各個教会の中で罪責を促し、教団全体の罪責告白として促して行く』ことを認識してほしい」と述べた。174名中118名の賛成で可決された(反対43名、保留8名)。

議員提案による「元日本基督教団紅葉坂教会牧師、北村慈郎教師の『免職』の撤回を求める件」が、時間をかけて議論された。石橋秀雄議員が同議案に対する疑問点を、議長承認の上で説明文書を配布して述べた。さらに教団問安使の雲然俊美、教団書記も指名されて答弁し、戒規適用に至る経緯につき詳細にわたって説明した。採決され、166名中64名の賛成で否決された。

「関東教区」東日本大震災被災支援に関する件、「憲

放射能汚染現状視察を報告

5月17日、教団会議室にて、38総会期教団救済対策本部第5回(通算第22回)会議を開催した。

最初に5月17日現在の国内募金総額が5億5692万6287円(前回4月1日から約2550万円増、海外からの献金が2億5250万8875円(同950万円増)となっていることが報告された。

報告、および3月までの会計報告がなされた。

被災地区報告として、奥羽教区からは、千厩教会の新会堂・牧師館の引渡しがなされたこと、宮古教会の移転新築計画の状況、新生釜石教会の修築工事計画の状況等が報告された。東北教区からは、被災教会の再建復興状況、放射能問題支援対策室設置検討、被災者支援センター関係(ポフンティア登録状況、活動内容

主に「宣教基礎理論における宣教理解」「教団立東京神学大学との関係回復」について質問があり、雲然教団書記は「宣教理解が教会論的意味から離れてしまったので、正確な理解の回復を目指している」とこれからの教団養成をして行く上で東京神学大学との関係を緊密にしていこうことが重要である」と述べた。

また東日本大震災に関する報告では、教区内にある被災教会より復興や工事の状況が報告され、教団派遣「エマオ石巻」専任者の飯野久美子氏からポフンティア派遣の感謝報告がなされた。逝去者追悼礼拝が、正

田國磨呂牧師の司式により執り行われ、一年間に逝去された教職、信徒が祈りに覚えられた。

四役選挙結果

【議長】秋山徹上尾合同、【副議長】熊江秀一(新津)、【書記】栗原清武蔵豊岡、【宣教部委員長】飯塚拓也(電ヶ崎)

事務局報

教師異動

諸川 辞(主若月健悟
就(代若月健悟
水戸中央 就(担森永憲治
桐生東部 辞(主小野團三
就(代栗原昭正
東京山手 辞(主長崎哲夫
就(主小野團三
駒澤 辞(担北川正弥
就(主木中部辞(主中村公一
代々木中部辞(主中村公一
就(主北川正弥
頌栄 辞(担宮崎綾子
就(担宮崎綾子
中渋谷 就(担宮崎綾子
高輪 辞(主長津 栄
就(主中村公一
日本基督教団 就(教長崎哲夫
就(主谷本公義
上富坂 辞(代岡田 仁
就(主谷本公義
阿佐ヶ谷辞(担五十嵐成見
花小弁井 辞(代真壁 巖
就(主五十嵐成見

などの報告がなされた。

関東教区からは、被災支援委員会報告として、仙台エマオへのポフンティア派遣、第2回被災地を訪ねる旅の企画、被災教会への支援状況などが報告された。

東京教区からは、安食教会が献堂式を行ったことが報告された。

その他、東日本国際会議実行委員会の開催(同会議における東北学院大学の位置付けを「共催」から「協

賛」に変更したことなど、伊藤瑞男副本部長と雲然俊美書記が福島県における放射能汚染問題の現状視察に出かけたこと等の報告がなされた。

審議事項においては、国内募金の使途について、今後、被災地支援(人道支援)活動に用いることの可能性について協議したほか、被災幼稚園・保育園の園舎再建資金貸付規定(返済期間20年、上限1千万円、利息

「信徒の友」編集部
長期アルバイト募集

◎職種 事務補助・編集補助(パソコン使用)
◎勤務 週3〜4日(勤務日は応相談)
◎時間 午前9時半〜午後5時
◎時給 当社規定による(交通費実費支給)
◎応募締切 7月10日必着(履歴書・写真付)
◎書類送付・問い合わせ 16910051東京都新宿区西早稲田2-13-18 日本キリスト教団出版局「信徒の友」募集係(TEL03-32041042)

消息

今駒泰成氏(隠退教師)



13年3月25日逝去、87歳。東京都に生まれる。'57年日本聖書神学校を卒業。同年川崎教会に赴任、日本盲人キリスト教伝道協議会、再び川崎教会を経て、'78年より'89年まで豊島岡教会を牧会し、隠退した。

遺族は息、今駒伊佐久さん。川名かね子氏(別帳教師)



13年3月27日逝去、92歳。東京都に生まれる。'48年日本基督教女子神学専門学校を卒業。同年より'49年まで東京教区に務め、'48年より'62年まで東中野教会を、その間'50年より'52年まで白金台教会を牧会した。

遺族は弟・川名政次郎さん。柳田剛行氏(隠退教師)



13年4月4日逝去、61歳。東京都に生まれる。'88年農村伝道神学校を卒業。同年和山山地の塩伝道所に赴任、所沢みくに教会、橋本教会、台湾基督教長老教会国際日語教会を経て、13年3月まで見付教会を牧会し、

隠退した。遺族は妻、柳田雅江さん。木田献一氏(百人町教会担任教師)



13年4月14日逝去、82歳。岡山県に生まれる。'61年ニューヨーク・ユニオン神学校修士課程を修了、'75年ミューンヘン大学にて神学博士号を取得。青山学院大学、立教大学を経て、11年まで

山梨英和学院に務めた。遺族は妻・木田みな子さん。河崎洋子氏(無任所教師)



13年4月20日逝去、86歳。岡山県に生まれる。'50年同志社大学神学部を卒業。同年平安教会に赴任、'56年より'92年まで同志社大学に務めた。遺族は弟・河崎保也さん。

教師検定委員会 基本方針に忠実に歩めるよう

渡部 和使

日本基督教団は毎年春と秋に教師検定試験を実施しています。その実務を委ねられているのが教師検定委員会です。この働きを担うことになった委員一人ひとりは責任の重みをかみしめながら任務に当たることになります。

3月末に開かれた第1回委員会において基本方針において基本方針を決定しました。「本委員会は、主の召命に応えて日本基督教団の宣教を担い、主の教会に仕える教師

委員会コラム

議決(合同教会のゆたかさの中で、教団信仰告白を基準として教師検定を行う)を踏まえ、和解の福音に根ざしつつ、合同教会としての日本基督教団の形成を担う教師を立てることをめざす」と続きます(以下略)。委員会がこの

を送り出すために、教憲教規に則って教師検定試験を実施する」と始まります。この部分は総会期によって大きく変わるということがありません。教憲第9条を受けています。それに「第32総会期第5回常議員会(2002年7月)の

「委員会」の役割は要するに教師志願者を試験して合格者を決定することです。教団が検定制度によって教師を立てる歩みをする以上、誰かがこの働きを担わなくてはなりません。しかし自分が担うことになるとは誰も考えないのではないのでしょうか。委嘱を受けて

た者は戸惑いながら、ただ主の助けを信じて引き受けるのです。御心が成りますように」ひたすらそう祈りつつ委員会としての責務を果してまいりたいと思います。

(教師検定委員長)



上:お世話になったアンゲリカさんご夫妻
下:巨大な十字架の下での閉会礼拝

ドイツ福音主義教会大会 《キルヒエンターク》

小松川教会牧師 佐々木良子

章18節)のテーマのもとに開催された。

私たちはまず何が必要であるかを知る必要がある…。神はあなたの手を開いてくださり、良いもので満たされていることを知る。(詩編104編24〜31節)これらを中心に、聖書研究や討論会等の集会、賛美、祈りコンサート等、毎日8時〜22時30分まで開催された。2500もの豊富なプログラムが用意され、目を通しきれない程の分厚いガイドブックと会場までの路線地図、近辺の地図等が事前に与えられた。

開会・閉会礼拝以外は、ハンドブックから各自で興味あるプログラムを選び、街中の教会に電車やバスで移動する、という宝探しのような毎日だった。

開会礼拝は、市庁舎広場で行われたが、群衆に阻まれて行き着くことができず、遠巻きにスクリーンで見る状況だった。説教はテーマより、ハンブルクの女性牧師が語った。

祝辞をドイツ連邦大統領、ドイツ福音主義教会牧師のヨアヒム・ガウフが述べ、別の日にはクリスチャン、牧師として討論会等にも出席していた(新聞一面に写真付きで報道されていた。メルケル首相も参加していたようである。

この大会のために学校は全て休校となり、学生たちが至る所で生き生きと奉仕しており、国のトップから、若者たちが一丸となって大会を支えていることは只々驚きであった。

閉会礼拝は、広大な市立公園に参加者が集められ、その様子は衛星中継で全世界に放映された。東方正教会の司祭が「キリストは甦られた」と宣言し、会衆一同が「彼は確かに甦られた」と、応答して始まった。ミカ書4章1〜3節等から世界の平和が語られ、45節を共に交読した。合間に説教、賛美、聖歌隊、オーケストラ等が応答の形で組みこまれ、司式者と会衆との一体化を感じた。特に感動したのは、使徒信条、主の祈りを世界の人々と共に捧げたということである。

聖餐式は、司式者が宣言した後、隣人のために個々人が更に「これはあなたのために裂かれたキリストの体、流されたキリストの血潮」と言いながらパン皿、葡萄酒の器を次々廻していくという貴重な体験をした。

さて、期間中は、アンゲリカさんというドイツ人のお宅にホームステイさせて頂いた。到着した日はわざわざ家族皆で空港まで出迎えて頂き感謝だった。

滞在中は集会に出る私のために屋食を持たせてくださったり、様々な心からのおもてなしを受けた。見ず知らずの外国人としてではなく、神の家族として歓迎していただき、言葉で表せない感謝で一杯である。帰国した今もメールをやりとりさせて頂き、ドイツに家族ができたような思いである。

この大会に参加させて頂けたのは、神の憐れみと多くの方々に支えられたと、心から感謝している。

国際関係委員会 エキュメニカル協力奨学生 を選考

第38総会期、第2回国際関係委員会が、5月17日、教団小会議室にて開催された。中道基夫委員長が開会祈禱を捧げた。

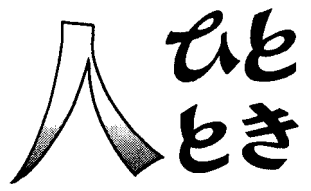
前回議事録確認の後、報告事項がなされた。

特にアメリカ合衆国長老教会(PCUSA)主催のPresbyterian Youth Triennium(7月16〜20日・於インディアナ州・パデュー大学)についての経過報告を行い、前年度エキュメニカル協力奨学生の2名(同志社大学、東京神学大学)から届いた報告書について説明がなされた。

今回の主な協議事項は2013年度エキュメニカル協力奨学金・奨学生選考に関する件であった。応募があった4名の資料をもとに長時間の議論が交わされた。

エキュメニカル協力奨学金とは、広い意味でエキュメニカルな相互理解と宣教協力に資するために日本において研究・研修に従事するアジア地域等からの留学生を支援するためのものである。

選考に際し、当奨学金の資金である世界宣教の日献金から繰入金があったこと、またPCUSAから女性教育のための献金があり、これを女性のための奨学金資金として繰り入れたことが報告された。



河原塚成江さん

御言葉に養われ、子どもと共に歩む者として



上尾富士見幼稚園主任。上尾合同教会員。

上尾合同教会付属の上尾富士見幼稚園主任の河原塚成江さんは、東京・足立区の愛恵学園で自由保育の中で育ったことが自らの原点だと語る。園長でもあったミス・ペイン宣教師が創立した愛恵学園は、子どもの親の教育にも熱心だった。両親は月一回揃って「両親の会」に行き、それで家庭も教育された。この時の経験は、今も思ふくものとなっている。

幼稚園卒園後も、愛恵学園が勧める日曜学校に通い続けた。東京神学大学の神学生も多く関わる日曜学校だった。高校3年の時に受洗。幼稚園の先生になりたいと願い、聖和大学(現在は関西学院に合併)に入学。四年制の一期生となった。そして

結婚。結婚後も働く意志はありながらも、2人の子どもの大きくなるまで幼稚園教師を退いた。その後、復職し、上尾富士見幼稚園に来て、もうすぐ20年になる。

今一つ、教会と幼稚園の働きが結びつかず、悩むことも多かった。しかし、秋山徹牧師と出会い、上尾合同教会で信仰生活をする中でほぐされていった。家庭や子育ての問題は、自分の力だけで解決できないと思うこともある。その時に、牧師との相談を勧めることができる。何より、礼拝に家族で来てほしいと願う。主にすべてを委ね、命を養う御言葉に耳を傾けることに満ちている。

キリスト者であることも、幼稚園の先生であることもしっかりと結びつけた今、毎日新しさに満ちている。

日本基督教団 伝道推進室 《発足記念大阪大会》

- ◆日時 2013年7月13日(土)14:00〜16:30
- ◆場所 日本基督教団 大阪教会

《説教》「ひとりを捜し出す」
小島誠志氏(久万教会牧師、元教団議長)
《講演》「ゴルゴタの十字架の主と私たちの洗礼」
近藤勝彦氏(神学者、前東京神学大学学長)

幼・保一体化に向けての「子ども子育て新システム」緊急研修会
…教会幼稚園・保育園の将来を考える…

《2013年7月15日(月)午後1時より5時》
於：西宮教会
《2013年7月23日(火)午後1時より5時》
於：札幌北光教会

- ◎講師 7月15日＝岡村宣氏(矢吹教会牧師、全国認定こども園協会理事)、鈴木信行氏(教団信徒、聖愛幼稚園理事長) 7月23日＝岡村宣氏、岸憲秀氏(千葉本町教会牧師、羔幼稚園園長)
- ◎対象 牧師、幼保園長・設置者、幼稚園教諭、保育士、教会役員他
- ◎参加費 2,000円(当日、お支払いください) 交通費・宿泊費は自弁にてお願いいたします。
- ◎参加申込 教団事務局宛にファックス(03-3207-3918)してください。締切は7月8日(西宮教会開催分)、7月16日(札幌北光教会開催分)です。
- ◎詳細 日本基督教団公式サイト uccj.org をご覧ください。
- ◎主催 日本基督教団伝道委員会・伝道推進室
- ◎共催 北海教区(札幌北光教会開催分) 日本基督教団伝道推進室長 石橋秀雄

◆宣教師公募◆

- 米国ニューヨーク郊外ユニオン日本語教会主任牧師
- ◎資格 日本基督教団正教師
- ◎最終締め切り 2013年10月1日(火)
- ◎面接 随時
- ◎資料請求 世界宣教部 TEL 03-132021054
- 4)